



1 (仮称) 同世代交流事業 (拡充) 旧 : 中学生会議

【事業目的・概要】

同世代の交流ができる機会を通して、身近な地域の中で顔見知りを増やし、地域活動への参加の機運を高める。

①学生会議（東部管内の中学生から大学生を想定したワークショップ）

「地域を知る」、「地域のために自分たちができることを考える」体験を通して、地域の一員としての自覚と、郷土愛を育む場の創出。

②就学前家庭交流事業（東部管内でモデル校区を選定・実施予定）

小学校入学前の親世代・子どもを対象に、入学説明会等の場を活用し、地域活動の紹介を行うとともに、住民同士の交流・身近な顔見知りを増やす取り組みを合わせて行い、子ども会やPTAをはじめとする地域活動への参加意欲を高める。



【（旧）中学生会議の様子】

【見込まれる事業効果】

- ・ 地域活動を知る→理解が深まる→参画意識の向上→地域活動への参加促進
- ・ 親子同士の交流から芽生える安心感や地域での連帯感が、その後の活動への参加意欲へつながる。
- ・ 地域活動は特別なことではなく、当たり前のライフワークとして意識付けられる。

【今後の展開・方針（案）】

- ・ 若い世代が地域を知り、考える体験を今後も継続して行う。
- ・ 就学前家庭交流事業は、パッケージ化し、他校区でも実施できるような体制づくりを行う。



2 東区地域コミュニティづくり支援補助金（継続）

【事業目的・概要】

自主自立のまちづくりを進めるために、地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けた取り組みに対して費用の一部を助成する。

○ 補助対象団体

- ・校区自治協議会
- ・校区自治協議会の構成団体
- ・町内自治会
- ・上記以外の任意団体（※平成30年度から追加）

○ 補助金の額 ※初年度のみ

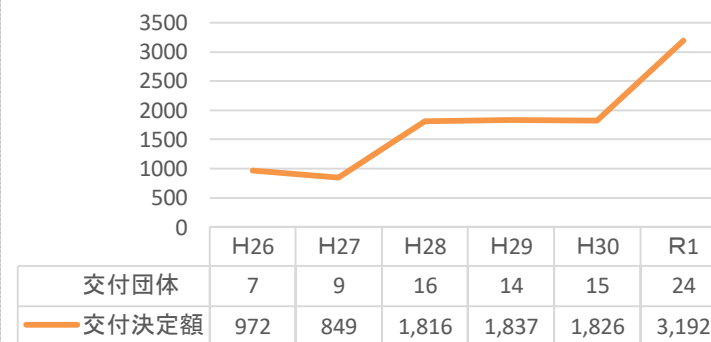
事業費の1/2以内で、2万5千円～30万円

○ 手続きの流れ

応募受付 ⇒ 企画コンペの実施 ⇒ 採択した企画提案に対して補助金交付

※交付条件：次年度以降も継続して事業を実施する見込みがあること等。

過去の実績



（単位：千円）

【見込まれる事業効果】

地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けて地域自らが事業計画を立案し、実行することによって自主自立のまちづくりにつながる。

【イメージ】

内容	1年目
地域の伝統・賑わい	・みこし太鼓の購入 ・音響設備等の購入 → ・地域のお祭りの復活

期待される効果

2年目以降

- ・お祭りの継続、拡大
- ・地域の伝統芸能の継承と担い手育成

【今後の展開・方針（案）】

より多くの団体に本補助金を活用してもらい、地域コミュニティの活性化を促進するために、補助金制度の周知・利用促進と合わせて、相談段階からの団体への申請フォローや過去の活用事例等の紹介を積極的に行う。



3 東区民文化スポーツ交流事業（継続）

【事業目的・概要】

（1）区長賞提供事業

地域が主体となって行うスポーツ大会や文化交流活動に対し、区長賞を提供することによって地域行事の発展や地域内交流の活性化を支援していく。

（2）スポーツ大会開催事業（事業縮小）

東区体協長連絡会と連携しながらミニバレーボール大会を開催することによって、地域団体間や世代間交流等の区民間交流を図っていく。

地域が主体となって行う活動への支援にシフトし、自主自立のまちづくり支援強化を図るため、サッカー大会はR元年度をもって事業終了。ミニバレーボール大会については、R2年度終了予定。

【見込まれる事業効果】

地域団体間及び世代間交流を通して住民同士の交流を図ることで、地域コミュニティを活性化させ、東区まちづくりビジョンの基本方針である「人と人とがつながり世代を越えて語り合うまち」を推進し、自主自立のまちづくりに寄与する。

【今後の展開・方針（案）】

開催内容や種目など地域が主体となって企画した各種スポーツ大会や文化イベントに対し、区長賞提供の拡大を図り、住民同士の交流の活性化を支援していく。



ちびっこまちづくり相撲大会



4 あさひばリビング（地域交流スペース）活用支援事業（継続）



【事業目的・概要】

若い世代から高齢者まで幅広い世代の地域住民が利用しているという場所の特性と、スペースを有効活用することで、新たなコミュニティを生み、地域の活性化とまちづくりのアイデアを引き出す。

《事業概要》

秋津まちづくりセンターロビーの一部を地域交流スペースとして開放。
“市民先生”を活用したワークショップの開催（月1回）
（例）・大学生を講師としたSNSでの情報発信（LINEの活用）・おばあちゃんの知恵袋 など

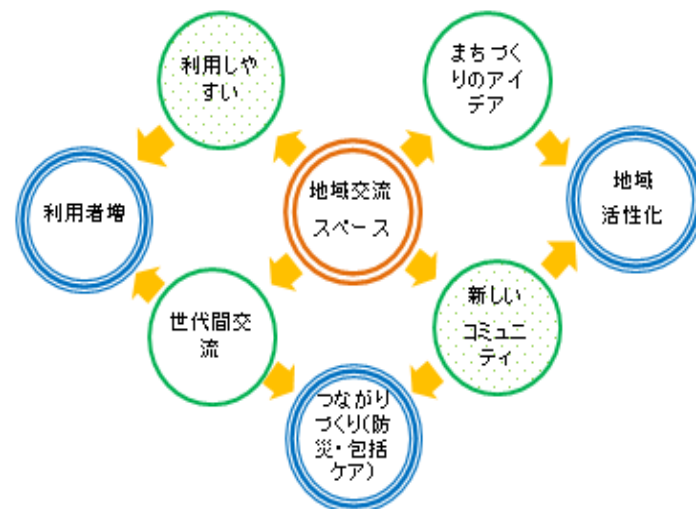
【見込まれる事業効果】

- ・多様な利用者が交流することで、人との繋がりができ、防災や地域包括ケアの推進にもつながる。
- ・新たなコミュニティの派生を促し、地域活性化につながる。

【今後の展開・方針（案）】

ワークショップを行う中で、参加者等からのまちづくりのアイデアや意見を吸い上げながら検証し、事業内容の充実を図る。

【イメージ図】



若者から高齢者まで集える
秋津のスタバ
を目指します！

（注）コーヒーは出ません

5 サロン活動支援事業（継続）



【事業目的・概要】

サロン等（集いの場）開催に係る負担軽減と内容の充実について支援することにより、サロン等の地域活動の活性化を図る。

①レクリエーション教室の開催

サロン等の実践者や支援をする事業所等を対象として、サロン等で実践できるレクリエーション講座の開催

②マッチング事業

サロン等の主催者が開催に係る協力者を見つけたり、ボランティア支援をしたい人が活躍できる場を見つけることができるようなマッチングイベントを開催

合わせて、活動団体同士の情報・意見交換の場としても活用することができる。

【マッチングイベントのイメージ】



【見込まれる事業効果】

- ・地域におけるサロン活動等の活性化
- ・サロン等での活動メニューが充実することで、継続した運営や地域住民の参加にもつながり、参加者及び支援者同士の地域コミュニティ活性化につながる。

【今後の展開・方針（案）】

- ・定例的に教室等を開催するなど、参加しやすい体制づくりの検討を行い、参加を促進する。
- ・協力団体等の情報収集を行い、マッチングの充実を図る。



地域で活動する防災士のスキルアップ支援や地域防災活動のネットワークづくりを行い、地域防災活動への参加意欲向上や地域の防災力向上を図る。

防災士のスキルアップを目的とした講座の開催

防災士同士の情報交換

防災士や校区防災連絡会メンバーとボランティア等が集い、協力者を見つけたり、活躍の場を見つけたり広げることができるようなマッチングイベントの開催



- ・災害時に地域で活動できる人材の増加→地域防災力の向上
- ・ネットワークを構築し活性化することで、地域防災に携わる方々の負担軽減につながる。

- ・防災士のスキルアップ講座を定期的 to開催し、地域での防災活動につながるよう支援していく。
- ・マッチングにより、防災士、校区防災連絡会、避難所運営委員会がボランティア団体との協力体制を構築できるよう支援していく。



7 ちょこっとパトロール（ちょこパト）（拡充）

【事業目的・概要】

近年、不審者からの声かけ事案等が増加しており、子どもたちを犯罪被害から守ることが喫緊の課題である。

このような中、令和元年度に託麻エリア6校区の関係団体で実行委員会を組織し、誰もが気軽に参加できる防犯ボランティア「ちょこっとパトロール」を設立。日常的にウォーキングやジョギングをしている方々に「あいさつパトロール」をしてもらうことで犯罪を抑制し、安全安心なまちづくりを推進する。

ちょこっとパトロール実行委員会（託麻6校区防犯協会、学校、託麻商工会、熊本東警察署、熊本市）

散歩やジョギングなど自己の健康増進のついでに
あいさつパトロールをすることで**地域の防犯力向上**を目指します！



【登録者の特典】

- ★オリジナルTシャツorビブスプレゼント(2枚目から有料)
- ★スタンプカード満タン(50回)でクオカード(500円分)贈呈

【参加登録状況】

- ★登録人数370名(9月17日～9月30日)
- ★近隣事業所からも参加登録あり

【見込まれる事業効果】

- ・地域住民が安心して暮らせる社会の実現（子どもや女性、お年寄りの見守り）
- ・地域活動の担い手育成（若い世代の地域活動参入）
- ・地域住民の健康増進（歩くこと走ることによって体力づくり・住民同士のコミュニティづくり）

【今後の展開・方針（案）】

市からの事業費負担は、令和元年度からの3か年計画。地域主体での実施・運営に向けた体制づくりを実行委員会で検討を行いながら、事業を継続していく。

また、東区内の他のエリアでも同様の取り組みができないか、検討を行っている。



年度	事業内容
令和元年度	実行委員会設立、Tシャツ製作、ちょこパト心得作成、登録者募集、講習会
令和2年度	事業検証（登録者からの通報件数、犯罪認知件数の減少など）、自主財源の確保（企業協賛金など）
令和3年度	事務局を行政から地域に移行し、自主自立の体制を構築



8 安全安心のまちづくり事業（継続）

【事業目的・概要】

（1）高校生との協働事業

高校生の自転車事故を減らすために、自転車月間期間中（毎年5月）に東区内の高校生と協力しながら自転車安全利用に関する啓発活動を行う。

◎ 啓発活動に協力いただいている高校

第二高等学校 東稜高等学校 東海大学付属熊本星翔高等学校
熊本マリスト学園高等学校



【高校生との協働による啓発活動の様子】

（2）区民啓発事業

区民まつりや地域主催のイベント時に啓発チラシや啓発グッズを配布することによって、区民の交通安全や防犯意識の向上を図っていく。

【見込まれる事業効果】

本事業を通じて東区民への交通安全・防犯意識の向上を図ることで東区まちづくりビジョンの基本方針である「誰もが安全で安心して過ごせるまち」の推進に寄与することができる。

【今後の展開・方針（案）】

地域のイベント等を通じて、若者や高齢者まで幅広い世代に対して交通安全や防犯に関する啓発活動を実施していく。



啓発チラシ（表）



啓発チラシ（裏）



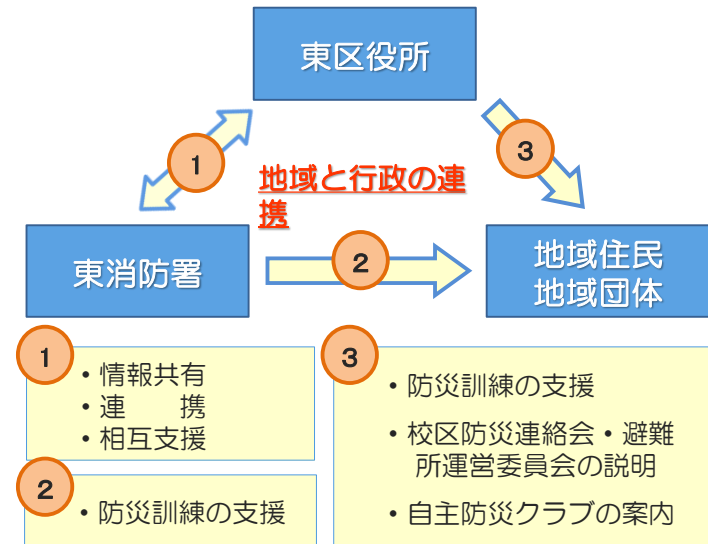
9 地域防災合同訓練事業（継続）

【事業目的・概要】

各町内単位（自治会、自主防災クラブ等）で実施されている防災訓練（避難訓練等）を、突発的かつ大規模な災害（震度6弱以上の地震等）が発生したとの想定で、校区全体で訓練を計画し、地域と行政（東区役所所及び東消防署）が合同で訓練を行なうもの。

○ 訓練の内容

- 1 避難訓練
- 2 避難所開設・運営訓練（福祉避難所連携訓練を含む）
- 3 情報収集・伝達訓練
- 4 物資供給訓練
- 5 非常食（アルファ米）炊き出し訓練
- 6 救急講習（AEDを含む）
- 7 水消火器取り扱い訓練
- 8 職員安否確認・参集訓練



【見込まれる事業効果】

実践的な防災訓練を行うことで、それぞれの役割を再認識し、災害時に迅速かつ円滑な対応を行うことができる。また、訓練で得た教訓等を生かし、今後の地域防災力の向上に繋げることができる。

地域と行政が連携した訓練を行うことで、災害に対する住民の防災意識も向上し、地域コミュニティの形成に寄与することができる。

【今後の展開・方針（案）】

新たに策定された本市の地域防災計画に基づき、大規模災害にも円滑に対応できるよう地域と連携した防災訓練を継続して実施するとともに、校区防災訓練を区内全18校区に拡大していく。



避難訓練



東消防署による救急講習



10 あさひばみんなの防災フェスタ開催経費（継続）

【事業目的・概要】

熊本地震から3年以上経過し、被災者の生活再建も進み、地域の防災意識が薄れつつある中、子どもから高齢者まで、防災に関する知識を楽しみながら学んでもらい、地域の防災力向上を目指すもの。

●開催内容

防災講座や体験型ワークショップ（日常生活でも使える防災術）

- ・V R 消火器操作体験 ・A E D 講習 ・応急手当の方法
- ・ロープ結び ・防災ずきんの作り方 ・非常食の作り方

※消防局やN P O 法人、ボランティア団体、学生等とも連携。

【見込まれる事業効果】

- ・日常生活でも使える防災術（応急手当、ロープ結びなど）を学ぶことで、災害時だけでなく日常の生活の中でも活用することができる。
- ・家族で参加することで、家庭内で防災について話し合うきっかけとなる。
- ・N P O やボランティア団体に協力してもらうことで、地域住民も各団体の活動状況を知ることができ、災害時の受援力を高めることができる。

【今後の展開・方針（案）】

あさひば地域（秋津校区、桜木校区、桜木東校区、若葉校区）では、既に3校区で校区防災連絡会が設立。今後地域の防災訓練と連携して、開催を継続していく。

【防災フェスタの様子】



防災クロスロードの様子



防災体験ブースの様子
（水消火器でのあて、防災ずきん作り）





1 1 食でつながる地域の環事業（新規）

【事業目的・概要】

- ・命や健康の源でもある食の大切さ・あり方などを地域と協働で啓発し、健康まちづくりを推進する。
- ・H31年3月に「授乳・離乳の支援ガイド」が改定されたことを受け、離乳期における子育て支援に特化した食育の啓発・推進を行う。

●1年目（R2年度）

地域における子育て支援者のスキルアップ研修（講演会・調理実習）
支援ガイド改定に伴う、食育媒体「離乳食のすすめ方・レシピ」作成

●2年目（R3年度）

食育媒体を活用した区民対象の離乳食教室等の開催
地域における自主的な食育活動の支援



【イメージ】

【見込まれる事業効果】

- ・乳幼児期における食の困りごとをもつ子育て世代の減少
- ・食育に関心をもつ子育て世代の増加
- ・地域での自主的な食育活動が活性化することで、子育てしやすい環境整備につながる。
- ・子育て世代と乳幼児期の2つのライフステージにおける食育を推進することで、将来的な食習慣改善につながる。

【今後の展開・方針（案）】

- ・R2～3年度は、子育て世代・乳幼児期に特化した食育を推進する。
- ・R4年度以降は、東区における現状や特性、地域からの要望等を踏まえ、幼児期や高齢期などライフステージ別のテーマを設定し、食育の推進を図る。

1 2 地域ささえあい推進事業（継続）



【事業目的・概要】

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域社会を目指し、認知症の人とその家族への理解を深めることにより、住民による支え合いを推進する。

認知症の人が安心して自分らしく暮らせるまちは、全ての人にとって安心して暮らせるまち

①認知症に対する理解浸透

認知症サポートリーダー養成講座（人材養成・ボランティア活動の体制づくり）

②認知症声かけ訓練開催支援

認知症の理解促進・地域における見守り・支え合いを広める目的

③自立意識醸成事業

住民の自立意識の醸成を図るため、区内の地域包括支援センターと連携した研修会を開催するとともに、講演会・広報活動等の支援を行う。

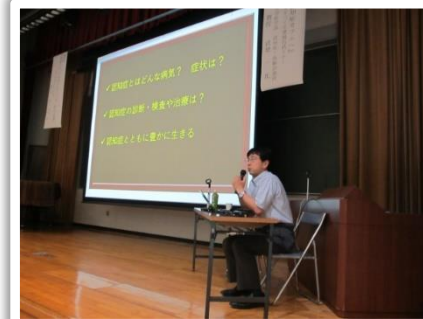
【見込まれる事業効果】

- ・認知症への理解が深まり、地域の支援や協力体制の下、認知症の方やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる。
- ・サポートリーダーの養成により、地域での多様なニーズに対応できるボランティア活動の体制づくりにつながる。
- ・自立意識の醸成により、健康づくりへ自ら取り組み、健康高齢者の増加へとつながる。

【今後の展開・方針（案）】

- ・加速する高齢化に伴い、認知症高齢者も増加し、地域での見守りの重要性も増すことから、認知症への理解浸透・サポートリーダーの養成を継続して行い、地域での活動推進を図る。
- ・地域包括支援センターと協働して、豊富な地域資源を活用しながら、今後増加する健康高齢者への様々な取組みの検討や展開を図る。

【認知症サポートリーダー養成講座】



【認知症声掛け訓練（託麻西校区）】





13 子育て支援ネットワーク活性化事業（継続）

【事業目的・概要】

区や校区単位の子育て支援ネットワーク活動や地域の主体的な子育て支援活動の支援などを行い、活性化を図ることで、安全・安心して子育てができるまちづくりを推進する。

- ①各校区の子育て支援ネットワーク関係者向け研修会（年1回）
- ②東区子育て支援ネットワーク連絡会の運営委員会の支援（年4回）
- ③「あつまっぷる（子育て情報を掲載した校区地図）」を活用した地域情報の発信
- ④子育てサークル等を活用した子育て中の保護者向け防災教育の実施



【運営委員会の様子】

【見込まれる事業効果】

支援活動を行う関係者同士の研修会や意見交換等を通して、区や校区のネットワーク活動の活性化や停滞中の校区の活動再開、子育て支援の充実などにつながる。

また「あつまっぷる」を活用し、地域の身近な相談窓口の周知や子育てサークル・児童館等への参加案内を行うことで、地域の中でのつながりが生まれ、親子の孤立防止や子育て中の保護者同士の交流促進につながる。



【親子防災講座の様子】

【今度の展開・方針（案）】

東区子育て支援ネットワーク連絡会を通して、校区ネットワーク間の情報共有を図り、校区を越えた相互協力体制の整備や地域での子育て支援活動の活性化を支援することで、区や校区の子育て支援を充実させる。

14 東区健康まちづくり推進員支援事業（継続）



【事業目的・概要】

東区の健康まちづくりを推進する人材養成や、その後の地域における自主的なボランティア活動の支援を行い、健康を切り口とした自主自立のまちづくりを進めるとともに、地域包括ケアシステムの推進に貢献していく。

① 東区健康まちづくり推進員養成事業（全8回）

② 東区健康まちづくり推進員活動支援事業

（定例会等の開催支援・スキルアップ研修・地域での活動支援）

< 具体的地域貢献内容 >

- ・健康づくり（生活習慣病予防、ロコモティブシンドローム予防等）の啓発
- ・体力測定 ・健康体操



○健康まちづくり推進員養成事業の様子



○健康まちづくり推進員による啓発活動

【見込まれる事業効果】

- ・東区民の健康意識の醸成
- ・ボランティア活動を通じた、自主自立のまちづくりの推進
- ・地域包括ケアシステム推進における人的資源

【今後の展開・方針（案）】

- ・健康まちづくり推進員の継続的な養成
- ・健康まちづくり推進員のスキルアップ向上を支援するとともに、食生活改善推進員や8020推進員等の健康づくりボランティアとの連携体制を構築し、地域の中での活躍の場の拡大を図る。



1 5 自然環境魅力向上事業（新規）

【事業目的・概要】

託麻三山は将来にわたって保全・活用すべき地域資源であり、令和３年春に本市で開催予定の全国都市緑化フェアのパートナー会場の候補となっている。

全国都市緑化フェアを契機として、観光資源としての更なる知名度向上を図り、地域交流の拠点にふさわしい環境整備を行うため、案内看板の設置や観光マップの作成等に取り組む。

【見込まれる事業効果】

案内看板の設置や観光マップの作成により託麻三山の知名度向上と観光資源としての利活用の促進を図るとともに、地域住民の交流拠点として環境整備を行うことで地域コミュニティの活性化につなげる。

【今後の展開・方針（案）】

令和３年春の都市緑化フェアに向けて、令和２年度に案内看板の設置や観光マップの作成等に取り組む。なお、事業費については、都市緑化フェア関連の予算を活用予定。





16 (仮称) 東区民まつり開催経費 (継続)

【事業目的・概要】

東区民まつりは、東区まちづくりビジョンの基本方針の一つである「人と人がつながり世代を越えて語り合えるまち」を目指し、平成25年度から開催している。

平成29年度からは実行委員会を立ち上げて運営を行ってきたが、区民の連帯意識の醸成や区への愛着心の高揚といった当初の開催目的は一定程度達成されたことから、令和2年度の開催にあたっては、地域主体の実行委員会への移行を検討するなど、自主自立のまちづくりの支援の観点から、今後の運営方法等について、地域団体等との協議・検討を進めていく。



【見込まれる事業効果】

区民まつりの運営方法等について、地域団体等との協議を踏まえて見直しを行っていくことで、区と地域が連携を図りながら、地域が主体となった自主自立のまちづくりの推進を協働により実現していく。



【今後の展開・方針（案）】

自主自立のまちづくりを進めるうえで、今後の東区民まつりをどうするのか、実施体制、内容、開催時期等について、他区の状況も参考にしながら検討していく必要があると考える。



17 まちづくり懇話会開催経費（継続）

【事業目的・概要】

区民と区役所の協働による暮らしやすいまちづくりを推進するために、これからの東区のまちづくりのあり方について懇話会委員と一緒に意見交換を行っていく。

【見込まれる事業効果】

地域活動に意欲的な方や学識経験者、さらには、地域包括ケアシステムや防災などの専門分野に精通した方々の意見や提案を参考にしながら、事業計画を組み立てることができる。

● まちづくり懇話会での意見や地域ニーズを反映したR2年度重点項目

- ① 地域コミュニティ活性化のための支援
- ② 住民同士が交流できる集いの場づくりへの支援
- ③ 地域防災・防犯力強化・向上のための支援
- ④ 被災者支援



【懇話会開催の様子】



【今後の展開・方針（案）】

地域課題やニーズ、課題解決のため事業案に対して、委員それぞれの専門的な立場から意見や提案をいただく場を今後も構築していく。

ワークショップなど、より効果的に多様な意見を集約するための手法を取り入れていく。



18 東区地域活性化支援事業（継続）

【事業目的・概要】

地域担当職員が各担当校区で、地域ニーズや地域課題に対して、きめ細やかにかつスピーディーに対応するための支援経費。

《活用事例》

- 研修会・講演会・ワークショップ等の開催
- 地域課題解決へ向けたアンケート調査
- 迅速に対応すべき地域課題への対応経費

【見込まれる事業効果】

- ・ 地域課題の解決に向けて、迅速に対応することができる。
- ・ 地域の特性に応じた課題の解決に向けて、地域の支援活動を柔軟に行うことで、住民が主体となった自主自立のまちづくりへとつながる。

【今後の展開・方針（案）】

地域の課題を地域住民自らが解決していく「自主自立のまちづくり」を構築するため、今後も継続して支援を行う。

～事業実施までの流れ（イメージ）～

地域ニーズ・地域課題の発見



地域担当職員による企画・立案



区役所内で企画内容の検討



事業の実施

（地域課題解決に向けた取り組み）



○ 熊本市子どもの食育推進ネットワークを活用した食育の推進

○ ボランティア交流会

○ 託麻三山散策ウォーキング